

## 目的

<最終目標>

海に関わる魅力ある多様なプログラムの提供および開発を主導しながらモデル事業としての実績をつくる。それをもって、産官学民の全領域を巻き込んだ社会的ムーブメントを作り出すとともに、2030年までに、海に関わる学びがあらゆる場にて常態化している状況を作る

<中長期>非教育業界の企業および団体、専門家と連携し海洋教育の授業実践を行い、その事例を魅力あるものとして広く周知することを通し、非教育業界の海洋教育への参入数を増加が期待される。その結果、教育現場以外からの海洋教育の盛り上がりが見込まれる。

## 目標

(1) 到達目標

教育界において、学習指導要領に基づくスタンダードな海洋教育が定着し、高度化が図られている状態を作る。加えて、社会教育や生涯学習を含み込む新しいあり方の方の海洋教育を作り出す動きが展開している状態を目指す。これまでは教育界に閉じてきていた海の学びが、社会に開きカルチャラーとして位置づいていくその端緒を生み出し、さまざまなアクターの参入によって、その後の展開が作られていく状態を目指す。

(2) 数値目標

- ・コンテンツ・プログラムの実施先：全国<12地域>
- ・コンテンツ・プログラムの直接的な受益者：教育団体<350>、教育関係者<3500名>、学習者<70000名>
- ・イベント開催：・5箇所以上の書店、図書館にてフェア開催
- ・WEB：各コンテンツ月5,000PV、年間60,000PV、アクティブユーザー4,000
- ・波及効果の測定：・波及効果の測定：実施先の児童生徒および保護者、教員へのアンケート調査を実施する。各種メディアでの記事掲載、新聞の記事掲載、テレビ放映の有無による行う。

## 事業内容

1. 海の学びのアプローチ開発

- (1) 時期：2022年4月～2023年3月
- (2) 場所：全国、イベント 計5回
- (3) 参加者：6,000名(学生、社会人) 12名(写真家)、36名(書店員)等
- (4) 内容：写真と本を切り口とした海の学びの成果物制作ワークショップ、展示等

2. 海の学びの教材・コンテンツ開発

- (1) 時期：2022年4月～2023年3月
- (2) 場所：全国、オンライン
- (3) 対象：一般、教育関係者、学習者
- (4) 内容：教材・コンテンツ開発

3. プラットフォーム開発

- (1) 時期：2022年4月～2023年3月
- (2) 場所：全国、オンライン
- (3) 対象：利用登録数 350件、ユーザー数 4,000名
- (4) 内容：教材・コンテンツ提供

## 成果物

- ・ポスター 12種類 各250部
- ・インタビュー記事 24回
- ・学校配布資料 3000部
- ・小冊子 2種類 500部
- ・資料集 2種類 500部
- ・コンテンツ・教材 ウェブサイトにて販売及び公開